

対象年度		平成31年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート												
事務事業名		社会人T T配置事業						予算事業名		社会人T T等配置事業費						
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令							
				10	01	03	2001	経常経費								
総合計画体系		4未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文							事業の区分		主要事業					
		4-1生きる力を育む教育環境づくり(学校教育)														
		①教育内容の充実							担当課係等		学校教育課					
4確かな学力の育成							学務係									
事業期間		継続(昭和29年度～平成32年度)														
【めざす姿(意図・どのような状態になるのか)】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】									
・35人超学級には県費T Tが配置されるが、配置されない学校・学年をフォローするためにT T講師を市独自に配置し、きめ細かい指導を実施する。 ・学校生活で介助が必要な児童生徒に対し、介助員を配置する。							チームティーチング方式の効果が検証され有効と判断された。県費T Tが配置されない小中学校への要望が強かった。 学校間格差の軽減のための措置でもある。									
【手段(事業内容・どのようなことを行うのか)】							【対象(だれに対して・何に対して行うのか)】									
・T T講師の配置 ・介助員の配置							・T T講師：県費T Tが配置されないが35人に近い学級 ・介助員：学校生活で介助が必要な児童生徒									
							【事業をとりまく環境の変化】 文部科学省の意見では、少人数学級以上にチームティーチングの効果が評価されている。学校からの要望も多い。 介助員については、障害を持つ児童生徒の保護者の普通学級への就学希望が強まる中で、特別支援学級への通級児童生徒が非常に増加している。当該児童生徒の有意義な学校生活を支援するために、また学級の他の児童生徒の安定した学習環境のため、介助員の配置が学校及び保護者から望まれている。									
【平成31年度 事業内容】				【平成32年度 事業内容】				【平成33年度 事業内容】								
・県費T T配置がない学校に市T Tを配置 ・支援を必要とする児童生徒や特別支援学級に通級する児童生徒に介助員を配置				・県費T T配置がない学校に市T Tを配置 ・支援を必要とする児童生徒や特別支援学級に通級する児童生徒に介助員を配置				・県費T T配置がない学校に市T Tを配置 ・支援を必要とする児童生徒や特別支援学級に通級する児童生徒に介助員を配置								
■事業費																
				H29年度		H30年度										
財 源 内 訳	国庫支出金			0		0										
	県支出金			0		0										
	地方債			0		0										
	その他			0		112										
	一般財源			36,216		39,707										
歳入計(千円)				36,216		39,819										
歳 出 内 訳	節(番号+名称)			金額(千円)		金額(千円)										
	01 報酬			35,859		37,592										
	09 旅費			55		105										
	19 負担金補助及び交付金			302		2,122										
歳出計(千円)(A)				36,216		39,819										
伸び率(%)						9.94										
備考	総合計画113ページ 予算書158ページ															

平成29年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H29年度	H30年度	H31年度
活動 指標	社会人TT配置対象校	校	目標	12.00	12.00	12.00
	必要とする小中学校への配置		実績	4.00	0.00	0.00
	介助員配置対象校	校	目標	12.00	12.00	12.00
	必要とする小中学校への配置		実績	9.00	0.00	0.00
成果 指標	TT講師配置割合	%	目標	100.00	100.00	100.00
	必要校への配置		実績	100.00	0.00	0.00
	介助員配置割合	%	目標	100.00	100.00	100.00
	必要校への配置		実績	100.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	少人数指導の効果、介助を要する児童生徒が増えており、学校生活での環境改善に必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	B どちらとも言えない	県費TT講師配置が中学校2年生まで拡充したが、単学級の学校等配置が必要である。介助員については要望が多く、県費職員配置の検討が必要である。
	手段の妥当性	B どちらとも言えない	本来は県費職員配置が望ましいと考えており、市で採用する手段が適当であるかの判断が難しい。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	本来は県費職員配置が望ましいと考えており、判断が難しい。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	介助員が当該児童の介助をすることにより、クラス全体の学習環境の改善に寄与している。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	多くの介助員が継続して勤務しており、経験豊富な介助員が増えている。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	学校からは、より多くの介助員配置の要望があることから、適切な配置ができているかの判断は難しい。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
介助員を必要とする児童生徒（特に自閉・情緒）が増加しており、学校からの要望どおり配置することが困難である。また、非常勤のTT講師及び介助員の人材確保が困難な状況にある。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
非常勤のTT講師及び介助員の人材確保に工夫が必要であり、積極的に人材の掘り起こしを行う。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☒ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画）
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置 企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。